

令和6年度 第2回 千代田区立九段中等教育学校入学等あり方検討会 会議録

日時 令和6年8月27日 午前10時00分～午前11時10分

場所 教育委員会室

【出席者】〔委員長〕大森委員（教育担当部長）

〔副委員長〕野中委員（東京学芸大学特別教授）

〔委員〕池戸委員（東京都立白鷗高校附属中学校校長）

盛谷委員（区立中学校長会会長、神田一橋中学校校長）

難波委員（区立小学校長会会長、九段小学校校長）

野村委員（九段中等教育学校校長）

山中委員（九段中等教育学校副校長）

上原委員（指導課長）

清水委員（学務課長）

〔事務局〕高田学務係長、石川学務係主事、

松井九段中等教育学校経営企画室管理係長、コンサルタント1名

1 開会

大森委員長 本日は、公立および私立中高一貫校の入学者選抜における特別枠の設置状況を参考に、今後の九段中等教育学校の入学者選抜の方向性について検討していきたい。

2 第1回検討会 議事内容の確認

事務局 （資料1により説明）

大森委員長 ご自身のご発言で気になるところはあるか。
（発言なし）

3 他自治体ヒアリング調査結果等の報告

事務局 （資料2及び資料3により説明）

大森委員長 ご意見、ご質問はあるか。

野中副委員長 資料2の調査対象は学校ではなく、教育委員会が調査対象なのか。

事務局 そうである。また、回答を得られなかった箇所については、インターネットで情報収集・整理した。

大森委員長 教育委員会ではなく学校に聞けば答えてくれるものなのか。

野中副委員長 答えにくいとは思いますが、知りたいのは、学校が特別枠をどう捉えられているのかだと思う。教育委員会と学校が調査内容を共有していれば、学校の意見も回答に反映される。教育委員会を通すのは良いが、学校の色々な意見が反映されているのかどうかはわからない。

大森委員長
事務局 聖徳学園のプログラミング入試で用いられるマインクラフトは面白い。
中高一貫校の特別枠では、傾向として国際的な視点のものが多いのか。
比較的多く見受けられる。

4 受検動機等アンケート調査結果の報告

事務局 (資料4により説明)

大森委員長 ご意見、ご質問はあるか。

野中副委員長 アンケート回答にある英語教育とはどういうものか。

野村委員 九段イングリッシュのことだと思われる。3月に保護者を対象に英語教育に特化した説明会を開催している。九段イングリッシュの方針やどこまで生徒の英語力を伸ばすのかを説明する。

大森委員長 学校説明会とは別に英語教育の説明会をしているのか。参加者はどのくらいになるのか。

野村委員 英語教育に特化した説明会である。160 人が入れる視聴覚室がいっぱいになるので、80 組くらい来ている。

清水委員 今回のアンケート調査結果の中で、受検を決めた理由に「本人の強い希望」とあるが、受検した一番の動機の生徒回答を見たときに「英語教育」が順位1位になっているところを勘案すると、「本人の強い希望」の理由としては「英語教育」が多い可能性がある。そう考えると更に生徒・保護者ともに英語教育が九段中等の受検を決めるかなり大きな理由になっていることが考えられると思う。

盛谷委員 生徒回答の5番目に理科教育がある。九段中等は比較的理科に力を入れており、観望会や夏休みの講習会を開催している。理科好きの児童が希望して参加している。そのような児童を対象とした入学者選抜も面白いのではないか。

野村委員 理科教育の中には、施設の視点も入っていると思う。理科室が6つある学校はあまりないので。普通は、物理、化学、生物、地学の4教室しかない。本校には6つの理科室があることは大きな特徴である。また毎月1回、東京大学の教授が来て、観望会を行っており、大変人気がある。小学校5～6年生が参加する。都民を対象に実施し、参加できる倍率が非常に高い。

難波委員	小学校でも千代田区は英語教育に非常に力を入れている。小学1年生から年間11時間、英語の授業がある。また6年生では、TOKYO GLOBAL GATEWAY（以下「TGG」という。）にも行く。英語に対する興味・関心が非常に高いというのも、英語教育の回答率が高い要因の1つだと思う。英語教育では海外研修もセットになっていると思う。教育方針と同様、英語の比重は上がってくると思う。本校の6年生は、小学生では海外生活を経験している子が多い。そういった家庭環境要因も英語教育の推進に一役買っているところがあると思う。海外経験をしている子の中で、九段中等に進学した児童もいるが、他の私立に進学した児童もいる。千代田区の小中学校の特徴として英語教育は位置づけられてくるのではないかと思う。小6、中学1～3年生も毎年TGGに行く。
上原委員	英語教育をこれからもう少し広げていきたい。現在は小学校高学年から中学校を対象としているが、それをもう少し幅広くしたいと思う。より使える英語に発展していけると良い。英語教育というのは、区としても力を入れていくことを考えている。また、海外研修はキャリア教育にもつながる視点と捉えることもできる。九段の特徴としてキャリア教育がトップになっている点は見逃せないところだと思う。
野村委員	キャリア教育は、これまでの九段自立プランを、今年度から九段探究プランに変更し、STEAM、グローバル、アントレプレナーシップを柱としている。英語に関する行事としては、1年生ではTGG、2年生ではブリティッシュヒルズ、3年生では全員がオーストラリアでホームステイ、4・5年生は選択になるが英国バンガー大学、UCLA、5年生では全員がシンガポール語学研修があり、英語に関する宿泊行事が多い。また、留学希望者も多い。
大森委員長	自立プランから探究プランへの変更による手ごたえはどうか。
野村委員	ガラッと変わったわけではないが、自分たちで解を求めていくことをやっている。都立の場合、次世代リーダー育成道場といって、80万円を使って1年間留学できるが、九段中等は受けられない。昔は受けることができ、私立も九段中等も入っていたが、今は都立のみ。
大森委員長	都立は教育庁の管轄だが、私立は生活文化局が管轄している。高校無償化の時も、設置者が実施するものとして九段中等は対象外とされた。
野村委員	また、ALT（外国語指導助手）以外にJET（語学指導等を行う外国青年）が入ると良い。ALTは英語の授業だけの補佐。JETは一日在校するので、放課後の英語の部活への支援や、英語の発表会等で指導してもらえる。海外大学へのエッセイを見てくれたりもする。
大森委員長	ネイティブの人材なのか。
野村委員	そうである。日本の文化等を学びたいと思っている人材。居住に関する支援が必要となる外務省の事業で、区市町村単位でしか申請できない。色々

な専門をもった青年が来る。日本の文化を2年くらい学んで本国に帰る。とても良い制度だと思う。東大和市はJETプログラムを採用している。

野中副委員長 そこはぜひ、千代田区に前向きに検討していただきたい。

野村委員 前回の検討会で話が出たが、特別枠のうち帰国子女枠は、白鷗高等学校附属中学校と立川国際中等教育学校で導入されている。特別枠の募集定員を一般募集定員の内数にしないといけないのは、外数にすると場合によっては学級数を2クラスにしないといけないから。学校法上、内数にせざるを得ない。中学校は1クラス40人という学級編制基準である。

上原委員 学級編制基準について、小学校は来年度から6年生が1クラス35人に移行する。

野村委員 コロナの時だけ、特別に外数が認められた。

大森委員長 帰国子女枠について都立の対応をお話しいただけるか。

池戸委員 白鷗の実態でいうと、海外帰国・在京外国人生徒枠の募集人員は20名から30名になった。特別枠は6名の中でレベルに達している児童を合格とする。30名が定員なので、応募者が30名を超えれば倍率が出る。海外帰国者と在京外国人枠を合わせて30名。海外の学校に通っている児童、もしくは海外の日本人学校、日本に帰国・入国してから2年以内の児童が対象となっている。その他、韓国等の民族学校、インターナショナルスクール。他県はインターナショナルスクールからの入学を昨年から認めなくなっているので、色々な動きが出てきている。先月から入学希望者の事前相談を始めているが、受検資格はあるが日本語が不自由だと入学した後厳しいことははっきりと伝えている。英語の授業だけは別枠で行うが、海外にいても日本人学校にいて英語がそれほど上手ではない生徒もいるので、まず英語のテストをやって、ある程度のレベルにある生徒を取り出す。なので、海外から帰ってきた生徒だけが英語の特別授業を受ける訳ではない。私学は、帰国子女コースを作って、その生徒たちだけのカリキュラムでやっている。私学と都立を保護者や本人が比べるときに、帰国子女としての特性をより活かしたい児童は、私学に行く。白鷗に来るのは、日本人としての教育、伝統文化を学びたいという児童がくる。白鷗の帰国子女枠の評判は良い。ただし、合わない生徒もいる。特別枠を作るのであれば、そのような生徒だけの特別のカリキュラムを作って私学と対抗するのか。それとも、九段中等の特徴的な教育を受けたい児童を入れるのか。例えば、そのような生徒を各クラスに編成し、英語教育のリーダーになってもらうとか。その生徒が九段中等の英語教育を牽引していくようなシステムを作るのか。それとも、そのような児童の受け皿として、教育としては、これまで九段中等がやってきたことをやる。そこに魅力を感じる児童を入れるのか。目的によって、色々な形ができる。うちは完全な後者。帰国子女を受入れる枠を用意して、一般試験がなく、作文と面接がある。どちらも英語

か日本語を選べるようにしている。一般試験がないので入りやすいが、授業では全く差をつけないので、学力がないと大変であることは言い切って受検してもらっている。

大森委員長 特別枠で入学した生徒を指導・育成する専用のカリキュラムを作って、さらにフォローが必要と思っていたが、そういった仕組みもあれば、そうでないものもある。

池戸委員 実は、そのような生徒ほどあまり海外志向ではない。今年度卒業した生徒が一期生だったが、逆に海外の大学に久しぶりに誰も行かなかった。保護者のニーズも、国際的な子どもに育てたいというはあるが、どちらかという和白鷗を受ける児童は、日本の文化をしっかりと勉強して欲しいとか、日本人としてのアイデンティティを育てたいという保護者が多い。英語を教育の最上位に置いている保護者はうちには来ない。帰国子女等が入学してくる本校のメリットは多様性である。逆に、私学はそういった児童を特別なカリキュラムで育てている。

野中副委員長 特別枠を設ける一番の目的は多様性の確保だと思う。他に及ぼす影響が大きい。併せて、九段中等では英語教育でも実績がある。グローバル人材を対象とした特別枠という考え方が一つあると思う。また、他自治体例にもある、トップアスリートを対象とした特別枠という方向も一つあると思う。もう1つ面白いのは、リーディングDXの関係。ここはこれからの教育で主流になる。2025の壁があるが、ここは大きな変曲点になる。そうした中で、東京で唯一の存在になっているのが九段中等。これを全面に出していくのが大事。DXを絡めていく特別枠も有り得ると思う。その基盤は、千代田区立であることの特性。千代田区立小学校や中学校とのつながりを、特別枠を考えていく際には重視していくことが必要だと思う。東京のど真ん中にあるという特性を活かす。色々な可能性があり、色々な多様性を確保するという意味では、多様な入試形態は必要。特に小学校との関係は大きい。特別枠でどうつながるのか。九段中等における入試の形態では大きなポイントになる。

5 今後の入学者選抜における方向性の確認

大森委員長 九段中等の入学者選抜における方向性について、現段階で持つイメージを聞かせていただきたい。

池戸委員 特別枠による入学者選抜は、児童本人がそれを使って九段中等に入ること、自分がどう伸びるのか。例えば、スポーツで入れるのであれば、そこで超一流のスポーツの指導が受けられるとか、そういった環境が必要だと思う。白鷗の特別枠は、例えば、公演で3か月くらい学校に来ていない子もいるが、そういう児童も受け入れます、という受け皿になっている。本校に入学したら、君のこういう能力をこれだけ伸ばしてあげるよとするの

	か、それとも受け皿なのか。どちらを目指すかにより全く異なる。前者なら指導者、環境、機材等を整える必要がある。九段中等で育てるのか、九段中等は受け皿なのかで、かなり準備が違うと思う。
上原委員	児童の色々な可能性を活かせる、特色のある特別枠となると良い。能力を活かしながら九段中等の中で過ごすことで、他の生徒たちにも活かされる。そうなるのととても良い。
清水委員	入学希望者の増加につながることも重要なポイントとなる。多様性の確保、九段中等の魅力や強みが対外的にアピールできる特別枠になると良い。他の入学希望者を惹きつける役割を果たす必要もある。
山中委員	千代田区立だからこそできることを考えて、今あるものをさらにバージョンアップして活かしていけると良いと思う。
野村委員	特別枠を設ける場合、その生徒をどう伸ばすかは大事。ただし、別コースを作るというのは少し違うと思う。やはり、他の生徒にも影響を与えてもらいたいので、そこは一緒にすべきと考える。例えば、放課後に特別な授業の選択枠を設ける。九段中等としてもっている特徴の中で、どういう特別枠を設けるのか。日本武道館があるし皇宮警察もある。そういうところとの連携・指導もできると思う。日本の伝統文化が白鷗なら、武道や体育的なものは九段中等とか。グローバル、STEAM、アントレプレナーシップがあり、ベースには教育DXハイスクールがある。生成AIは全国でもトップクラス。そういう特徴も活かす。そういったものを、入学者選抜で入れることも可能だと思う。公立であることも忘れてはいけない。公立なのに、そこまでできるのかということも大事だと思う。
難波委員	世界で活躍できる人材の育成は、東京都教育委員会でも目指している。多様性の確保という点では、例えば、スポーツに着目する考え方もあると思う。区内小学校では、各学校に野球チームとミニバスケットチームがある。盛んに活動されているので、そういったスポーツ分野で秀でた児童を受け入れることで、どのような生徒に育っていくのかという視点で特別枠を設けるのも、提案の1つにはなると思う。
盛谷委員	千代田区の学校なので、千代田区に住んでいる子どもたちが、九段中等に行きたいと思ってもらうことが一番だと思う。区立小学校の児童が、九段中等に行きたいと思えるような特別枠を作れると良い。求められる部分として英語や理科があるので、そのあたりを募集の中心に据えるという考え方はある。また、6年間通い続けて、その先のリーダーとして育成できる児童に入ってもらいたい。

大森委員長 様々のご意見、アイデアをいただいた。次回の検討会に向けて、いただいたご意見をさらに深掘りできるよう、事務局の方で情報を整理してもらいたい。前回の検討会で話に挙がった湯野正憲先生についても、情報を集めてほしい。

事務局 次回の第3回検討会は、10月または11月の開催を予定している。

6 閉会